1803 HU81-C

強制給排
レンジフード

取付説明書

取扱説明書・取付説明書は必ずご使用になるお客様にお渡しください。

※ 機種により多少デザインが異なる場合があります。

安全上のご注意

- 取り付けの前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付けをおこなってください。
- ここに示した注意事項は、製品を安全に正しく取り付け、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」「注意」の２つに区別しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

⚠警 告：人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。

⚠注 意：人が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容。

お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

絵表示の例

⃠ 記号は行為を禁止する内容を告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

● 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

⚠ 警 告

- 分解・修理・改造禁止 ● 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
  発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります
- 使用禁止 ● 交流 100V 以外では使用しないこと
  火災・感電の原因になります
- 埋込禁止 ● レンジフードの壁への埋め込みはしないこと
  漏電した場合、発火するおそれがあります
- 取付注意 ● 排気工事をされる場合は建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
  火災などの原因になります
- 取付注意 ● 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
  誤った配線工事は感電や火災の原因になります
- 取付注意 ● メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電気的に接触しないよう取り付けること
  漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります
- 取付注意 ● 製品とダクトは、可燃物との間を10cm 以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
  火災などの原因になります
  詳しくは所轄の消防署に問い合わせてください
- 取付注意 ● レンジフードは、薄板の金属部（壁内ラス網など）と接触しないよう取り付けること
  漏電した場合、発火するおそれがあります
- アースを取り付ける ● アースを確実に取り付けること
  故障や漏電のときに感電するおそれがあります
  アースの取り付けは販売店にご相談ください
- 取付注意 ● 自然排気型のストーブを使用するときは、空気の取入口（給気口）により十分給気される配慮をすること
  排気ガスが室内に逆流し、一酸化炭素中毒を起こすおそれがあります

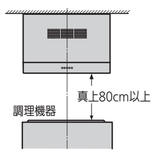
⚠ 注 意

- 使用禁止 ● 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと（浴室用換気扇をお使いください。）
  感電および故障の原因になります
- 取付禁止 ● 周囲温度が 40℃以上になるところには取り付けないこと
  火災・故障の原因になります
- 接触禁止 ● 運転中は指や物を絶対に入れないこと
  けがをするおそれがあります
- 取付注意 ● レンジフードの取り付けは十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと
  落下によりけがをするおそれがあります
- 取付注意 ● 部品の取り付けは確実におこなうこと
  落下によりけがをするおそれがあります
- 手袋をする ● 取り扱いの際は必ず厚手の手袋をすること
  鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります

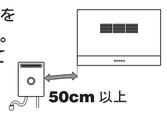
取り付け上のお願い

- **下記は「建設工事」に区分され、関連する法令、規定に従って法的有資格者がおこなう必要があります。**
  - **・大工工事【設置のための下地工事等】**
  - **・配線工事【コンセントの設置、コンセント・コネクター利用以外の配線接続等】**
  - **・管工事【ダクト配管およびレンジフードからのダクト接続等】**

  流通業者（販売店）を通して組立・設置する場合は、「建設工事」とそれ以外の「組立・設置」を区別しておこなってください。
- ダクトの不燃処理について
  - ・ダクトを 50mm 以上の不燃材料、または 20mm 以上の国土交通大臣不燃認定品の不燃材料で被覆してください。
  - ・施工要領は、各メーカーの「標準施工要領技術指導書」・「検査要領書」に従ってください。
- 調理機器の幅はレンジフードの幅以内のものをご使用ください。調理機器はレンジフードの前面より手前にはみ出して設置しないでください。排気効率が低下します。
- 屋外壁面の排気出口に取り付けるベントキャップまたはパイプフードの通気抵抗は 400m³/h 時 50Pa 以下のものをご使用ください。
  防虫網付きのものは目詰まりして排気性能が低下する場合がありますので使用しないでください。
- 非常に長いダクトや細いダクト、あるいは極端に屈曲したダクトは排気効果をいちじるしく低下させたり、騒音が大きくなりますので使用しないでください。
- 製品は調理機器の真上に取り付けてください。
  なお、製品取付高さは、製品の下端が調理機器の真上 80cm 以上になるようにしてください。



- レンジフード下部には、湯沸器を絶対に取り付けないでください。
  また、横方向 50cm 以上離して取り付けてください。
  湯沸器の真上は高熱になるため故障の原因になります。



- 電源は専用コンセントおよびブレーカーを設けてください。火災・故障の原因になります。
- 製品仕様を改造してのご使用は絶対におやめください。
- 部屋の中央で料理される場合は油煙が捕集しきれませんので、お台所の全体換気のために他の換気扇と併用していただければ、よりすぐれた換気ができます。
- 建物が密閉されている場合は必ず、約 400cm² 程度の空気取入口を設けてください。
- 同時給排モデルのレンジフードをお使いの場合でも、建物の気密性によって給気が必要となる場合があります。その場合は別途空気取入口を設けてください。

取り付け前の調査と準備

⚠ 警 告

- 分解・修理・改造禁止 ● 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
  発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります
- 取付注意 ● レンジフードは、薄板の金属部（壁内ラス網など）と接触しないよう取り付けること
  漏電した場合、発火するおそれがあります
- 取付注意 ● 製品とダクトは、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
  火災などの原因になります
  詳しくは所轄の消防署に問い合わせてください
- 埋込禁止 ● レンジフードの壁への埋め込みはしないこと
  漏電した場合、発火するおそれがあります
- 取付注意 ● 排気工事をされる場合は建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
  火災などの原因になります

⚠ 注 意

- 手袋をする ● 取り扱いの際は必ず厚手の手袋をすること
  鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります
- 取付禁止 ● 周囲温度が 40℃以上になるところには取り付けないこと
  火災・故障の原因になります
- 取付注意 ● レンジフードの取り付けは十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと
  落下によりけがをするおそれがあります

1 取付面の強度確認
製品を支える強さが必要です。

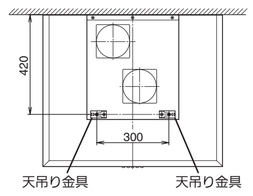
	製品質量
750 幅	29.5 kg
900 幅	31.5 kg

■板張りの場合（取付面は必ず不燃処理をおこなってください）
- ●板厚が 20mm 以下の場合には壁に補強板を埋め込み、補強板にレンジフードを取り付けてください。
- ●板厚が 20mm 以上の場合は補強板の必要はありません。

■コンクリート、タイル壁の場合
- ●あらかじめ補強板を壁に埋め込んでおくか、カールプラグ等を使用し固定してください。

■土壁の場合
- ●柱などに固定した補強板をあらかじめ壁に埋め込んでください。

2 吊りボルトの設置
2 本の吊りボルトを下図および製品寸法図を参照して天井部梁に取り付けます。
※ 吊りボルトは M10（市販品）を使用してください。
※ 吊りボルトは耐荷重 200kg ／本となるように取り付けてください。



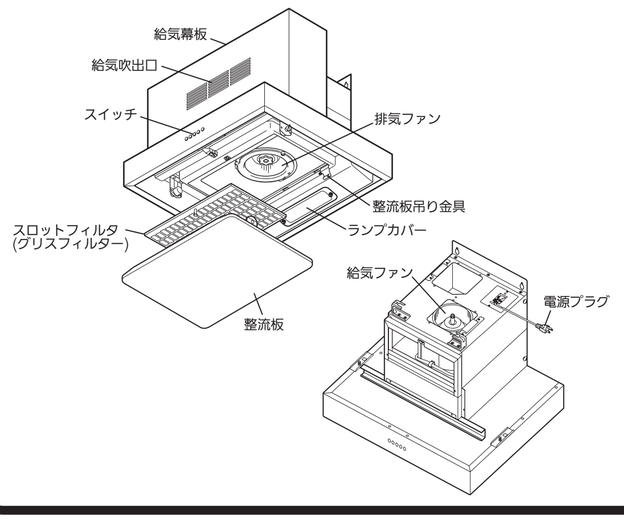
3 別売部品の準備
排気工事に応じた別売部品の準備が事前に必要です。

4 標準取付寸法
本製品の標準取付寸法は、調理機器の上面から製品の下端まで 80cm です。
※火災予防条例では、グリスフィルターの下端が調理機器の真上 80cm 以上必要となっています。

5 電源コンセント・ブレーカー
電源コンセント・ブレーカーは専用のものを設置してください。（交流・単相 100V）
コンセントは、JIS C 8303 2 極接地極付差込接続器 15A 125V をご使用ください。

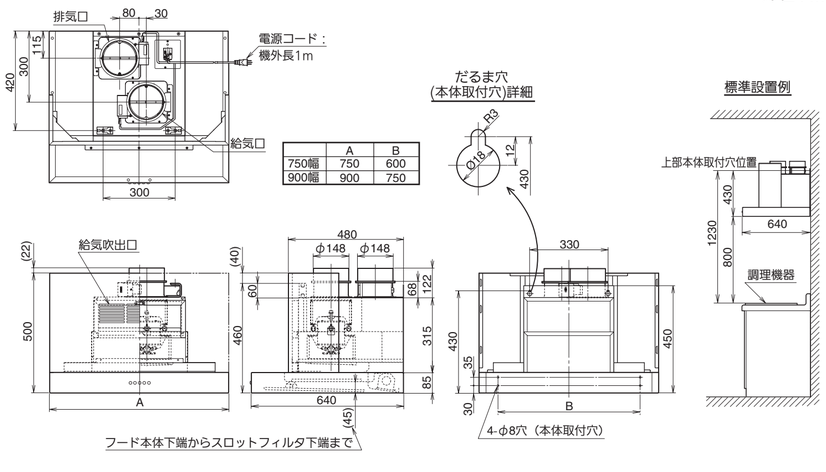
お願い
必ずアース（D 種接地工事）をしてください。
レンジフードが誤作動することがあります。

各部のなまえ



製品寸法図

（単位：mm）



	A	B
750幅	750	600
900幅	900	750

付属品

- **座付ねじ（φ 5.1 × 45）6 本**
  本体・給気幕板の取り付けに使います。
- **フランジ付き六角ナット（M10） 4 個**
  本体の取り付けに使います。
- **給気口（電動シャッター） 1 個**
  本体に取り付け、給気ダクトとの接続に使います。
  3Pコネクター
- **吊り金具 1 個**
  本体の取り付けに使います。
- **排気口（電動シャッター） 1 個**
  本体に取り付け、排気ダクトとの接続に使います。
  2Pコネクター
- **天吊り金具 2 個**
  本体の取り付けに使います。
- **ソフトテープ 2 本**
  給気口・排気口とダクトとのすきまをふさぐのに使います。
- **給気幕板 1 枚**
  本体に取り付けます。

取り付けかた

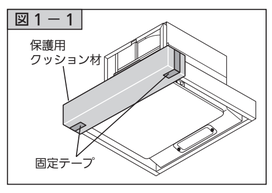
1．付属品の確認

⚠ 注 意

- 手袋をする ● 取り扱いの際は、必ず厚手の手袋をすること
  鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります

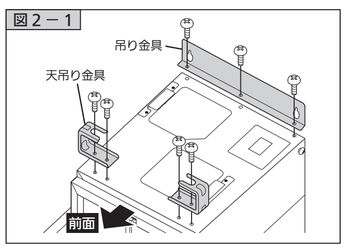
付属品を確認します。
梱包箱から吊り金具、天吊り金具、給気口・排気口、ねじ等の付属品を取り出し、上項の付属品一覧により不足がないか確認してください。

お願い
保護用のクッション材と固定テープは取付作業が完了するまでキズ、破損防止のためはずさないでください。（図 1 － 1）

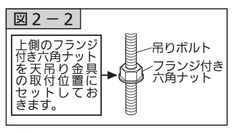
図 1 － 1


2．本体の準備

1 吊り金具・天吊り金具を取り付けます。（図 2 － 1）
本体の天板にあらかじめ取り付けられているねじを使用し、付属品の吊り金具 1 個および天吊り金具 2 個を天板へ取り付けます。

図 2 － 1


2 事前に取り付けた吊りボルトに付属品のフランジ付き六角ナットを取り付けます。（図 2 － 2）
吊りボルトの下側のフランジ付き六角ナットの位置（天吊り金具取付位置）は製品寸法図を参考にあらかじめセットしておくと後作業が容易になります。（吊りボルトは取付作業者側で手配願います。）

図 2 － 2


※下側のフランジ付き六角ナットはまだ取り付けないでください。
本体取付時に吊りボルトを差し込めなくなります。

3．給気・排気ダクトの準備

⚠ 警 告

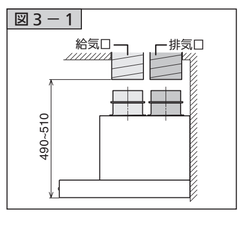
- 取付注意 ● メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電気的に接触しないように取り付けること
  漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります
- 取付注意 ● 排気工事をされる場合は、建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
  火災などの原因になります
- 取付注意 ● 製品とダクトは、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
  火災などの原因になります
  詳しくは所轄の消防署に問い合わせてください

⚠ 注 意

- 使用禁止 ● 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと（浴室用換気扇をお使いください。）
  感電および故障の原因になります
- 取付禁止 ● 周囲温度が 40℃以上になるところには取り付けないこと
  火災・故障の原因になります

1 製品寸法図を参照し、事前に管工事業者（法的有資格者）へ壁穴の開口を依頼してください。

2 φ 150 のステンレスダクト、またはスパイラルダクトを図のようにレンジフードの上部に突き出すようにセットして、周囲を仕上げます。
（コンクリート、タイル、土壁の場合）（図 3 － 1）

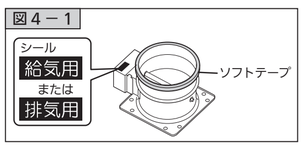
図 3 － 1


4．給気・排気用部品の取り付けと接続

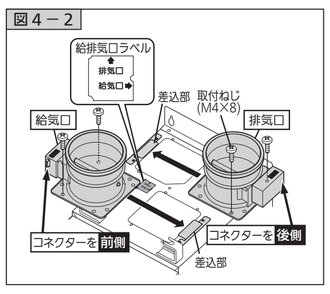
※「1. 付属品の確認」の項で取り出した給気口・排気口を用意してください。

お願い
手動でシャッターを開閉すると故障の原因となりますのでお止めください。

■ ソフトテープの貼り付け（図 4 － 1）
給気口・排気口に付属品のソフトテープを貼ります。

図 4 － 1


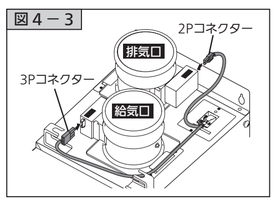
■ 給気口・排気口の取り付け（図 4 － 2）・（図 4 － 3）
給気口および排気口のコネクター部を図 4 － 2 の向きにして本体上面の差込部に差し込み、それぞれ取付ねじ 2 本で取り付けます。
天板の「給気口」「排気口」の表示に合わせて給気口および排気口を取り付けてください。
※取付ねじは天板にあらかじめ取り付けられています。

図 4 － 2


■ 給気口･排気口への信号線の接続（図 4 － 3）

1 給気口のコネクター接続部（3P コネクター）にレンジフード本体の信号線（3P コネクター）を接続します。

2 排気口のコネクター接続部（2P コネクター）にレンジフード本体の信号線（2P コネクター）を接続します。

図 4 － 3


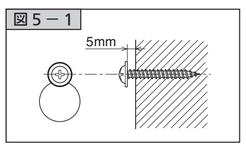
お願い
- コネクターの接続は確実におこなってください。接続が不十分な場合、レンジフードが動作しない、発熱による故障などの原因になります。また、電源線、信号線は挟まないようご注意ください。
- コネクターを挿入する際は、ツメの向きを合せて確実にロックしてください。
- 給気口・排気口の取付位置が間違っている場合、配線が届かないことがあります。給気口・排気口を取り付け直してください。

5．本体の取り付け

⚠ 注 意

- 取付注意 ● レンジフードの取り付けは十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと
  落下により、けがをするおそれがあります
- 取付注意 ● 部品の取り付けは確実におこなうこと
  落下によりけがをするおそれがあります

1 だるま穴用座付ねじをねじ込みます。（図 5 － 1）
製品寸法図を参照し、だるま穴位置（左右各 1 ヶ所）に付属品の座付ねじ（φ 5.1 × 45）を壁面とのすきま 5 mmまで締め付けます。

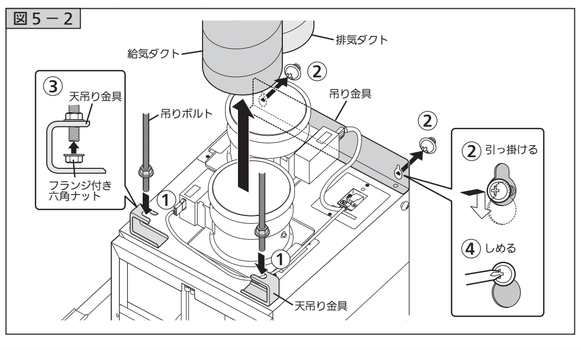
図 5 － 1


2 本体を引っ掛け固定します。（図 5 － 2）
天吊り金具に吊りボルトを差し込みながら（①）、だるま穴用座付ねじに吊り金具を引っ掛けた後（②）、フランジ付き六角ナット（下側）で天吊り金具をしっかりと締め付けて固定します（③）。

お願い
ダクトに給気口・排気口を差し込みながら本体を取り付けてください。

3 だるま穴用座付ねじをしっかりと締め付けます（④）。

お願い
本体の水平度を確認しながら固定してください。

図 5 － 2


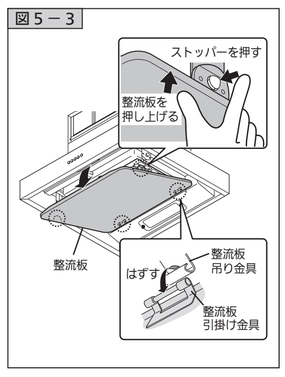
4 整流板をはずします。（図 5 － 3）

保護用クッション材は本体の取付手順 4 ～ 9 において一時取りはずしてください。
手順 9 まで終了したら、保護用クッション材を元のように取り付けてください。

1）整流板の左右を両手で支え、押し上げます。

お願い
整流板を両手でしっかりと支えてください。落下のおそれがあります。

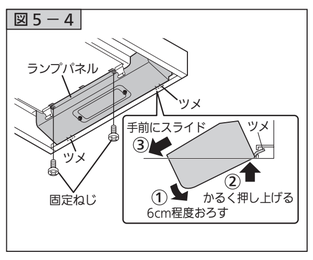
2）左右のストッパーを押し込みながらゆっくりと 10cm 程度おろした状態で、整流板を少し奥に押し上げながら上に持ち上げ、整流板吊り金具からはずして手前に取りはずします。

図 5 － 3


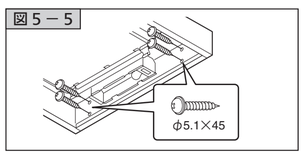
5 ランプパネルをはずします。（図 5 － 4）
1）2 ヶ所のランプパネル固定ねじをはずします。

2）前側を 6cm 程度おろし、そのままの状態で後側をかるく押し上げ、そのまま手前にスライドさせ後側両端にあるツメ 2 ヶ所をはずし、ランプパネルをはずします。

お願い
内部の配線を傷つけたり、はさんだりしないでください。

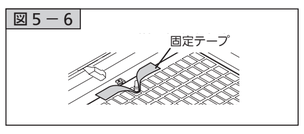
図 5 － 4


6 座付ねじ（φ 5.1 × 45）4 本で本体の背面をしっかりと固定します。（図 5 － 5）

図 5 － 5


7 ランプパネルをはずした時と逆の手順で取り付けます。

8 スロットフィルタを固定している固定テープをはがします。（図 5 － 6）

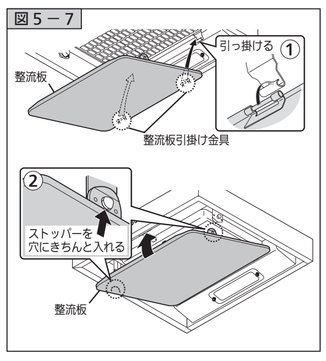
図 5 － 6


9 整流板を取り付けます。（図 5 － 7）
1）整流板引掛け金具をフードの整流板吊り金具に引っ掛けます。

2）前端をゆっくり持ち上げてパチンと音がするまで押し込んでください。

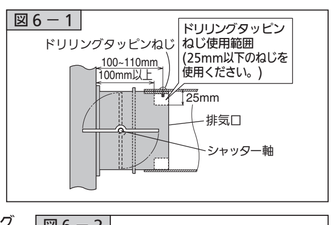
3）整流板を軽く上下に動かしてみて確実に取り付けられたことを確認してください。

お願い
整流板の固定は確実に行ってください。ロックが不十分ですと整流板の落下の原因となりますので、取り付け後、再確認してください。

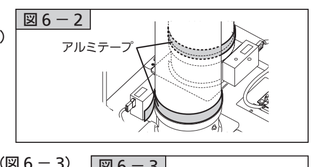
図 5 － 7


6．ダクトの接続

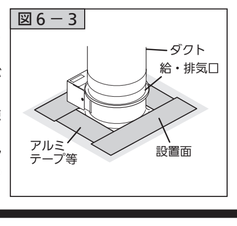
お願い
ドリリングタッピンねじなどで排気口を固定する場合は、シャッターにねじがあたらないように図を参照してドリリングタッピンねじ使用範囲以内に固定してください。（図 6 － 1）

図 6 － 1


ダクトの接合部へ風漏れ防止のテーピング（アルミテープ）をおこないます。（図 6 － 2）

図 6 － 2


■ 給・排気口設置面の漏風確認のお願い（図 6 － 3）
給・排気口とダクトを接続する際に、無理にダクトにレンジフードの給・排気口を接続しようとすると、給・排気口と給・排気口の設置面（製品天面等）が変形し、風漏れが発生してしまう場合があります。
風漏れ確認のために、ダクトと接続後は試運転（強運転）をおこなってください。
漏風する場合は、給・排気口と設置面の周りをアルミテープ等（現場調達品）で漏風防止処置をおこなってください。

図 6 － 3


7．電気配線

⚠ 警 告

- 分解・修理・改造禁止 ● 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
  発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります
- 使用禁止 ● 交流 100 V以外では使用しないこと
  火災・感電の原因になります
- 取付注意 ● 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
  誤った配線工事は感電や火災の原因になります
- アースを取り付ける ● アースを確実に取り付けること
  故障や漏電のときに感電するおそれがあります
  アースの取り付けは販売店にご相談ください

分電盤のブレーカーを「切」にし、電源プラグをコンセントに差し込みます。

お願い
- 電源は専用のコンセント（２極接地極付差込接続器 15A、125V）およびブレーカーを設けてください。
- 「9. 試運転」までブレーカーは「入」にしないでください。
- コンセントは電源コードの長さを考慮し、設置してください。
- 必ずアース（D 種接地工事）をしてください。

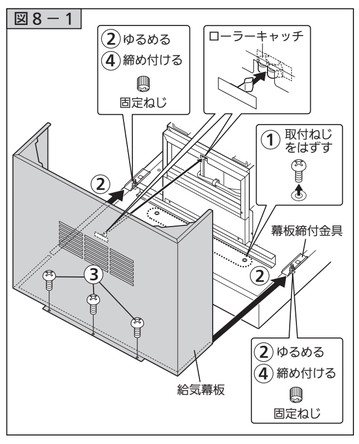
8．給気幕板の取り付け

1 取付ねじをはずします。（図 8 － 1）
給気幕板取付位置に取り付いている取付ねじ（M4 × 8）3 本をはずします（①）。

2 給気幕板を取り付けます。
幕板締付金具の固定ねじ（左右各 1 ヶ所）を本体内側からゆるめ、付属品の給気幕板をローラーキャッチで固定されるまで差し込みます（②）。

3 給気幕板を固定します。
1）手順 1 ではずした取付ねじ（M4 × 8）3 本で給気幕板を本体に固定します（③）。

2）幕板締付金具の固定ねじをしっかりと締め付けます（④）。

図 8 － 1


9．試運転

⚠ 注 意

- 接触禁止 ● 運転中は指や物を絶対に入れないこと
  けがをするおそれがあります

■ 分電盤のブレーカーを「入」にし、スイッチを操作して運転状態を確認してください。スイッチの操作と運転状態については取扱説明書をご覧ください。
■ 最終設置した状態で試運転してください。
■ 運転時、各速調の排気が正しくおこなわれていることを確認してください。
■ 異常な騒音、振動がないことを確認してください。
■ 屋外の排気出口から排気され、異常音がないことを確認してください。
■ 取り付けまたは各種工事にて発生した不具合で修理を依頼されますと全て有料となりますので十分確認してください。
■ 製品保護のため、はずした保護用のクッション材と固定テープをもとの状態に取り付けてください。

10．お客様への説明

■ 取扱説明書によって機器の取り扱いを説明してください。
■ 取扱説明書と共に、この取付説明書を必ずお客様にお渡しください。

［製造元］ FUJIOH 富士工業株式会社
本社・営業部 〒252-0206 相模原市中央区淵野辺 2 丁目 1 番 9 号
TEL 042(768)3754（営業部）